



Zambia

学校名：羽村市立栄小学校

氏名：喜多 良仁

[担当教科：小学校全科]

- 実践教科等：道徳
- 時間数：1時間
- 対象生徒：第1学年
- 対象人数：24人

### 1 主題名「けんこうに きをつけて【A-10 節度、節制】

資料名「クララちゃんの日(自作教材)」

### 2 単元の目標

**ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)**

- ・他国の人々や文化を知ることを通して、人との関わりを考えながら、自分の生活について考える。  
(つながりを尊重する態度)
- ・ザンビア(開発途上国)の生活と日本の生活との相違点を考え、自分の生活を振り返り、自分の役割について考える。  
(他者と協力する態度)

### 3 単元の指導について

#### (1)教材観

本主題の内容項目は、健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をするをねらいとしている。小学校低学年は、学校生活に慣れ、家庭のルールや学校のルールを守り、規則正しく生活しようと意識が芽生える時期である。その反面、意識が身の回りまで及ばず、無意識に友達に迷惑をかけてしまったり、整理整頓ができなかったりする児童もいる。時間を守り、生活に一定のリズムを与え、わがままをしない規則正しい生活が快適な毎日を送ることにつながることに気付かせ、基本的な生活習慣を身に付けようとする意欲と態度を育てていくことが大切である。授業を通して、自分の生活を振り返り、よりよい生活習慣を身に付けさせていく。

地球規模で人々の生活を考えると、世界は様々な課題を抱えている。小学校1年生にとって社会とは、家庭や学校であり、世界の諸問題まで目を向けるのは難しい。しかしながら、学校生活の中で友達や異学年の児童と交流し、自分と他者との違いを知ることを経験している。海外研修で訪れたザンビアの小学生の様子を紹介し、開発途上国の人々の生活について児童に知らせる。日本で暮らす自分の生活と比較し見つめ直す中で、よりよい生活について考えさせていく。他国で生活する、「世界の友達」を意識しながら、互いによりよい生活ができるよう行動できる児童を育てるため、継続して国際理解教育を行うことが大切である。

#### (2)児童観

本学級の児童は、学習に対する興味や関心が高い。授業で積極的に発言する児童が多く、話し合い活動においても、自分の考えをすすんで発言している。道徳の時間においても、自分の生活を振り返り、道徳的価値について考えながら生活を改めようとしたり、行動に移そうとしたりしている。

本単元では、学校生活や家庭生活を振り返り、ザンビアの小学生の生活と比較しながら自分がどう生活すべきか考え、行動に移させていく。入学して約半年が経ち、子供たちは一つ一つ学校のルールを身に付けてきた。時間を守り、身の回りの整頓を自分からする児童が増えてきている。しかし、休み時間と授業時間の切り替えなどで声を掛けなければ自分から動けない児童もいる。家庭の仕事をしながらか学校に通うザンビアの小学生の生活を知ること、時間の大切さを知り、時間を守って規則正しく生活をしようとする態度をより高めていく。また、食生活にも触れ、バランスのよい食事の大切さに気付かせ、好き嫌いしないで食事をしようとする意識を育てていく。

#### (3)指導観

指導にあたって、「子供たちにとっての当たり前」と「ザンビアの人々の当たり前」の違いに気付かせる。ザンビアの人々の生活がイメージできるように現地のものや写真を多く用意して子供たちに紹介する。

電気や水道が整備されていない環境を知り、「かわいそう。」ではなく、「どのように生活をしているか。」に意識を向けさせ、恵まれた環境で生活をしている自分たちがやるべきことを考えさせていく。

自分自身の生活について考えさせるにあたって、「時間」について意識させる必要がある。算数の「とけい」で時刻を読むことを学んでいるが、朝起きる時間、食事の時間など、生活で時間を意識する経験は不足している。事前に自分の生活時間について家族に協力を請い、考えてもらう課題を設定した。

授業においては、ザンビアの小学生の一日が分かるよう、スライドショーで多くの写真を紹介する。「衣」、「食」、「住」それぞれの視点に立ち、自分の生活を振り返り、よりよい生活のためにできることを考えさせられるよう配慮した。ザンビアの人たちは不自由とは思わず、あるものを工夫して利用して生活をしている。日本に住む子供たちがそれを見て、「かわいそう。」ではなく、「自分たちだったらどう生活するか。」を考えられるよう導いていく。

#### 4 評価規準

観点	ザンビアに興味をもつこと(興味・関心)	他の価値を尊重すること(価値・態度)	内面に働きかけること(技能)	学習に関すること(知識)
評価規準	・ザンビアについて、自然や文化、人々の生活について興味をもっている。	・ザンビアの小学生の生活と、自分の生活を比べ、振り返り、改めようとしている。	・規則正しい生活のために自分に必要なことを考えている。 ・外国人の生活を知り、よさや苦労について考えている。	・ザンビアの小学生の一日について把握している。
評価方法	観察・発言	ワークシート・発言	ワークシート・発言	ワークシート

#### 5 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
時間外	●夏休みの思い出	○夏休みの思い出について、友達や先生の話に興味をもって聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの思い出を振り返る。</li> <li>友達に伝えたい内容をまとめる。</li> <li>学級で発表をする。</li> <li>質問や感想を発表する。</li> <li>ザンビアの様子について教師の話聞く。</li> </ul>
時間外	●今日の一枚	○朝の会で一日一枚、ザンビアの様子を伝える写真を提示し、ザンビアの文化や生活について説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真を見て、何の様子かを考える。</li> <li>説明を聞き、日本の文化や生活との違いを考える。</li> <li>写真を見て感じたことや思ったことを交流する。</li> <li>ザンビアの人たちに伝えたいこと、自分たちができることを考え、発表する。</li> </ul>
時間外	●先生のバッジは何？	○SDGsバッジの17色が表す意味や、SDGsの概要について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsバッジを観察する。</li> <li>SDGsとは何か、17の項目について自分との関わりを考える。</li> <li>持続可能な社会に向けて、世界が取り組んでいることを知り、日本では何ができるかを考える。</li> </ul>
1	けんこうにきをつけて	○他国の人々の文化を知り、規則正しい生活をしようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の自分の一日について振り返る。</li> <li>「クララちゃんの一日」を見て、ザンビアの小学生の生活について知る。</li> <li>自分たち(日本)の生活と、ザンビアの小学生の生活の似ているところ、違うところを話し合う。</li> <li>自分自身を振り返り、これから生活で心掛けていきたいことを発表する。</li> </ul>

## 6 授業事例の紹介

小単元名【 けんこうに きをつけて 】

### (1) 指導案

(ア)実施日時 10月25日(木)第5限

(イ)実施会場 1年3組教室

(ウ)本時のねらい

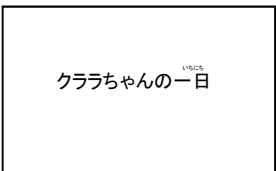

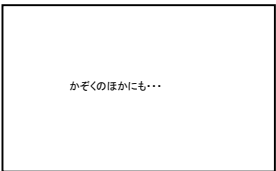


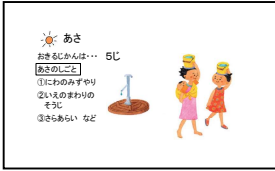



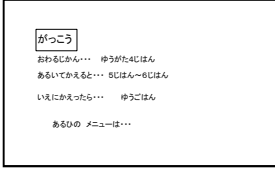


他国の人々の文化を知り、規則正しい生活をしようとする態度を養う。

(エ)指導のポイント

- ・スライドショーを見ることで、ザンビアの小学生の生活が視覚的にイメージしやすくする。
- ・板書で日本とザンビアの生活について共通点、相違点を示していき、自分の生活と比較しやすくする。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	普段の自分の一日について振り返らせる。	○宿題で取り組んだ「ぼく・わたしの一日」を見返し、自分の生活について振り返る。 ・朝起きる時間について ・夕食について ・家のお手伝いについて	一斉	・事前に課題を出し、起床時間、食事のメニュー、家の手伝いについて家庭に協力してもらい、ワークシートに記入させておく。 ・早起きについて触れ、健康について想起させる。	
展開 前段 10分	「クララちゃんの一日」を見せ、ザンビアの小学生の生活について紹介する。	○スライドショー「クララちゃんの一日」を見る。	一斉	・ザンビアの小学生の生活の様子についてスライドショーで見せながら説明していく。 ・日本とザンビアの共通点や相違点について確認しながら資料を見る。	

1 	2 	3 	4 
5 	6 	7 	8 
9 	10 	11 	12 

「クララちゃんの一日」

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族構成、家の仕事など要点を板書にまとめる。</li> <li>・気がついたこと、眩きなどを板書に残す。</li> </ul>	
--	--	--	--	---	--

展開 後段 15分	日本とザンビアの小学生の生活の似ているところ、違うところについて話し合わせる。	○自分たち(日本)の生活と、ザンビアの小学生の生活の似ているところ、違うところを考え、発表する。 【似ているところ】 ・学校に通っている ・夕ご飯を食べる時間 ・家の手伝いをしているところ 【違うところ】 ・学校の始まる時間 ・朝起きる時間がとても早い ・食事のメニューが少ない	個人 ↓ 一斉	・自分自身の生活を振り返るため、ザンビアの生活と比較したときに生活水準などに話題が流れないように配慮する。 ・補助教材として、働いているザンビアの子供の写真を掲示する。 ・「早寝早起き」「食事のメニュー」など、健康を意識したキーワードを強調する。	・ザンビアの小学生の一日について把握している。 ・ザンビアの小学生の生活と自分の生活を比べ、振り返り、改めようとしている。 (ワークシート・発言)
終末 15分	自分自身の生活を振り返らせ、これから生活で心掛けていきたいことを発表させる。	○板書とワークシートを見比べながら自分自身を振り返り、これから生活で心掛けていきたいことをまとめ、発表する。	個人 ↓ 一斉	・健やかな生活のために自分が生活の中で改善したいところを発表させる。	・規則正しい生活のために、自分に必要なことを考えている。 (ワークシート・発言)

## (2) 授業の振り返り

### 【成果】

- ・事前課題「ぼく・わたしの一日」を出し、起床時間や家の手伝い、食事のメニューなどについて家庭の協力を得て、児童に把握させることができた。そのため、ザンビアの生活を比べて自分の生活について振り返り、考えることができた。
- ・ワークシートを活用することにより、児童に自分の考えを視覚的に表現させることができた。そのため、積極的に自分の考えを発表し、話し合いを活発に進めることができた。
- ・ただ「早起きをした。」だけでなく、「早起きをして庭の水やりをしたい。」など、目的をもって自分の生活を改めようとする児童が増えた。

### 【課題】

- ・提示した写真が少なかつたため、ザンビアの生活をイメージするには情報量が足りなかつた。写真の提示の仕方や選別の仕方を検討する必要がある。
- ・日本とザンビアの生活で似ているところ、違うところを話し合う活動はグループで話し合わせてもよかった。一斉では、意見を発表できる子が限られてしまうため。

## (3) 使用教材

### ① 私の一枚

教師海外研修で撮影したザンビアの写真の朝の会で一日一枚紹介した。教室後方の黒板に、「今日の一枚」コーナーを設け、近くでじっくりと見られるようにすると共に、フォトアルバム「今日の一枚」を作り、遡って見返せるようにした。

### ② 『クララちゃんの日』

研修先で訪問したマザブカのナチポマ初等学校の高石さん(青年海外協力隊:小学校教育)にご協力を得て、ザンビアの小学生の一日についてインタビューをして、シートにまとめていただいた。その資料を基に、写真やイラストを挿入してスライドショーを作成した。

### ③ ワークシート「ぼく・わたしの一日」

児童に一日の生活を把握させるため、ワークシートを作成した。「起床時間」「朝やること」「夕食時間」「好きな食事メニュー」「家でお手伝いしている仕事」について事前に家族に協力してもらい、記入してもらった。

## 7 単元をとおした児童生徒の反応/変容

### ○ザンビアコーナーの設置

学活の「夏休みの思い出」を実施してから、教室に「ザンビアコーナー」を設置した。ザンビア国内の地図、現地で購入したお土産（バッグ、チテンゲなど）、フォトアルバム「今日一枚」を展示し、休み時間に手に取ってじっくり見られるようにした。本棚には、現地で購入した教科書（grade1&6）を並べ、朝読書で読めるようにした。初めのうちはチテンゲを腰に巻いて遊んだり、シェイカー（大きな豆を乾燥させてできたもの）を鳴らしてみたりとただの遊び道具だったが、ザンビアのことが分かってくると、様子が変わってきた。フォトアルバムを眺めながら、「ザンビアにはサッカーゴールはないのかな。」「モールには何が売っているのだろう。」など思いを巡らせたり、ザンビアの教科書を読みながら、「数字はすぐに100まで覚えるんだね。」「この問題はできるよ。」などと、日本での学習内容と比べながら学校の様子にも興味をもつようになった。

### ○私の一枚

夏休み明けから朝の会で「今日一枚」の時間を設定してから、子供たちは毎日、「今日の写真は何ですか？」と写真の紹介を楽しみにしていた。当初は一枚一枚、「何を」、「どこで」撮影した写真か、説明をして終わっていたが、次第に写真を見せるだけで、「これは畑で仕事をしている写真だ。」「道路にごみが散らかっている。」など、写真から見たこと、感じたことを活発に意見交換できるようになった。「水の供給」「済み続けられるまちづくり」など、SDGsに関わる問題については時間を多めにとって説明をし、考えさせた。写真を見て、「キリン！」「シマウマ！」と叫んでいた子供たちも、「このゾウは耳を広げているから怒っている。」「このヌーの家族のお父さんはいるのかな。」など、写真から情報を得て、考えられるようになっていく。ザンビアの学校の教室の写真を見せたときには、「教科書がない！」「床の上は冷たそう。」「一人一人に机があったほうがいい。」など、SDGs(4:質の高い教育をみんなに)に関連させて考えを発表することができた。

### ○先生のバッジは何？

SDGsの17の目標について、1年生にも分かる言葉に噛み砕いて説明をした。

(例)3. すべての人に健康と福祉を→みんなが病院に行けて、薬がもらえるようにする

「風邪を引いたとき、病院や薬局がなかったらどう？」「困る。」「なかなか治らない。」「でもね。先生が行ってきたザンビアでは、病院に行くのに何時間も歩いて行く人もいたんだよ。」と、環境の違いに驚き、言葉をなくす児童もいた。

17項目すべてを理解するのは難しいが、説明をした日から、「水を飲みたいのに井戸まで汲みに行かなければいけないから大変だ。」「電気がないからエネルギーを作る必要がある。」などザンビアに必要なものを考えたり、環境汚染のポスターを見て「ごみをちゃんと捨てないと、海がごみで汚れてしまう。リサイクルしないとね。」と「つくる責任、つかう責任」のマークを指さしながら話したりする子が出るようになった。

### ○「ぼく・わたしの一日」及び本時の授業

事前課題「ぼく・わたしの一日」を出すまでは、子供たちは自分が何時に起き、何時に朝食を摂り、何時に家を出ているかなど、時間に対する意識が低く、時計を見て生活する習慣が十分に身に付いていなかった。また、週末に家の手伝いをする宿題を出していたが、「自分の食器を片付ける。」「布団を片付ける。」など、自分に関わるものが多かった。

本時の授業では、導入において友達同士で「ぼく・わたしの一日」を見合い、自分の生活について振り返らせた。そこで、親に起こしてもらっている児童が、「ちゃんと自分で起きられるようにしなきゃ。」と発言するなど、友達の生活と比べて改めようとする雰囲気広がった。さらに、展開で「クララちゃんの一昨日」を見ると、「部屋の掃除ならわたしもできる。」など、ザンビアの小学生の生活から、自分ができる家の仕事に気付く児童が増えていった。日本とザンビアの生活を比べた相違点を板書にまとめていくと、それを見ながら、「これは自分にもできる。」と自分の生活を振り返っていた。終末では、「ぼくは、毎日元気に過ごせるように、好き嫌いしないでいろいろなものが食べられるようになりたい。」「わたしは、自分で起きて学校に行けるように、早寝早起きをがんばりたい。」など、児童は自分の生活の中での課題を見つけ、意識していきたいことを発表することができた。

授業実践から2か月後に、残飯をゼロにすることができた。また、始業終業に合わせて挨拶ができるよう、時間を意識して生活する習慣が身に付いている。

## 8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

### 【～派遣前研修】開発途上国に対する考え方の変容

・教師海外研修に参加するまでは、日本と開発途上国との関係は、「日本が一方向的に援助するもの。」という思い込みがあった。派遣前研修でSDGsの基本的な考え方や具体目標を知り、先進国と途上国が互いに働きかけて社会が成り立っていることを理解した。また、途上国には多くの資源があるが、産業発展が不十分なため確保されていないこと、それが世界全体の成長を遅らせているということも分かり、パートナーシップの必要性を知ることができた。

### 【海外派遣前】視覚的資料収集における課題

・授業実践では子供たちにザンビアの人々の生活についていかにイメージを持たせるかが課題だったため、視覚的資料をいかに集めるかが重要であった。しかし、自分自身の経験・情報が少なく、ザンビアという国のイメージが出来ていなかったため、海外派遣前にどのような映像や写真を入手すべきか整理できなかった。

### 【海外派遣後】海外派遣で得たものをどのように活かすか

・ザンビアでは、目に付いたものすべてを写真やビデオに収めようと心掛けた。そのため、膨大な量の資料が入手できた。しかし、それをどのように子供たちに見せていくか、具体的な案が浮かばなかった。派遣後研修で授業案の練り直しがあり、アドバイスの中で、JOCVの協力が得られることを知り、ザンビアの小学生の生活を知る貴重な資料を得ることができた。

### 【全体の成果と課題】

#### (成果)

- ・初めて海外に行く機会を得て、自分自身の視野や考え方を広げることができた。
- ・SDGsについて知り、世界が目標としている持続可能な社会について理解し、意識して生活するきっかけを得られた。
- ・ザンビアで海外研修ができたことにより、勤務校の先生方にザンビアやSDGsについて興味をもつきっかけが作れた。
- ・1年生の子供たちが、海外の国に興味をもったり、考え方の幅を広げたりすることができた。
- ・一連の研修での経験を通して、自分で得たことを授業実践に反映させ、具現化することができた。
- ・研修メンバーの実践例を知ることで、授業イメージの幅を広げることができた。

#### (課題)

- ・海外で必要十分な経験を得るためには、語学力やコミュニケーション能力を身に付ける必要があると分かった。
- ・勤務校、自治体へ研修成果を発表する場を設け、教師海外研修を広めていく。
- ・勤務校にて海外研修で得られたものを共有するために、授業実践の内容をどの先生でも行えるものにブラッシュアップしていく必要がある。
- ・教師海外研修で得た情報や資料を勤務校の財産として残すため、教材化していく必要がある。
- ・ユニセフ募金や子供たちの海外研修など、国際理解教育・開発教育に関心を向ける取り組みを周知、拡大させるための計画を立てる必要がある。

## 9 教師海外研修に参加して

「海外に行くと、視野が広がる。」という言葉は今までよく耳にしていたが、実際に自分で経験してみると、その言葉の意味が本当によく理解できた。日本から出ないまま生活していたら、自分自身や日本のことを客観的に見たり考えたりすることはなかっただろう。日本のよさを改めて知るとともに、課題やなすべきことについて考えることができた。

2020年には東京でオリンピックが開催され、多くの外国人が日本を訪れるだろう。それにより、外国の人々との関わりは自然と多くなるはずだ。今までの自分のように、未知の世界を恐れ、一步を踏み出せないでいる子供ではなく、自分から様々なことに興味をもち、すすんで世界に飛び込み、考え、仲間とともに成長できる子供たちを育てられるよう、教師海外研修で得たこと、学んだことを今後も学校現場や自らの生活に活かしていく。